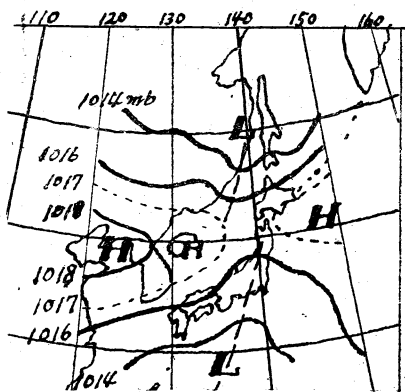
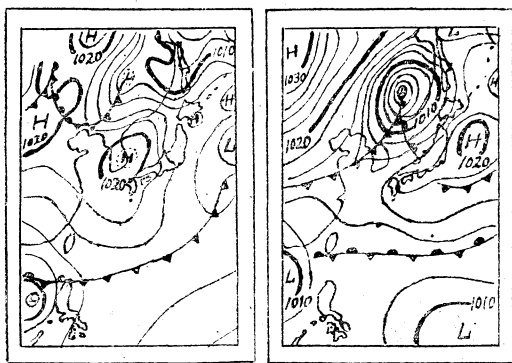


第1表によるとこの頃の天気には7日の遅期が現われている。

8. 前項に関連して9月22日の気圧配置の状態を最近10カ年の平均天気図(中央気象台3⁴, 9⁴の天気図により作製)で表わしてみた。第6図はそれで、また第7図に



第6図 9月22日平均天気図 (1945年~1954年)



第7図 a. 1952年9月22日 09時 b. 1952年9月24日 09時

は昭和27年当日のものと24日のものを掲げた。しかしこれは5項の後段で述べたような理由からあまり意味がないかも知れない。

9. この頃の季節の状態から初霜の最早発現日をあたってみた。倶知安の記録では最早は9月21日(1950, 1951年)となっており次が22日(1952年)である。もっとも1943年以前の区内観測当時には9月15日(1935年)に初霜をみた例はある。平均(1944~1954年寒候季)では9月29日となるが、23日から26日に至る期間に発現した年はない。したがって、とくに異常な年でなければ9月21, 22日頃がまずその年の最初の結霜危険日と云えよう。しかし古い記録や第1図のように、15日頃から気温がやや急降している状態、および次に述べる道内の初霜発現日などから推して、倶知安では9月15日を第1次の危険日とみた方が万全かも知れない。さて道内では各測候所の1950年までの観測(区内資料を除く)によると初霜日の最早記録は、中部以西の海岸地帯では寿都の9月6日(1886年)を除くといずれも9月22日以前にはない。しかし内陸部や道東地方では札幌の9月9日(1888年)を例外とすればその最早発現日は9月14, 15日であるが、次位は以後21日までの間に最も多い。

10. これまで記したことはナマの統計資料を観察して若干の事実を羅列したにすぎないので、これをもって直ちに9月22日をシンギュラリティーに結びつけることは無理かも知れないが、一応考えついたままをあえて報告させていただいたわけである。

終りに札幌管区気象台坂岸調査課長、野村小樽測候所長、並びに気象研究所奥田技官の各氏には色々御教示と御助言をいただき、また道内測候所からは御多忙のところ資料を送って下さったことをここに附記して厚く御礼を申し上げます。

かみなりの研究——大気中の電気現象——

楽しい理科教室 (25)

北川信一郎, 川野 実著

A 5版 106頁 150円 恒星社

楽しい理科教室のシリーズはなかなか活潑に続々と新刊を出しているが、これはその第25巻である。この本の主題は「かみなりの研究」であるが、その内容はむしろ副題の「大気中の電気現象」の方がふさわしい。試みに章の題目をあけてみると、大気中のイオン, 空中電場, 雷雨の気象学, 雷の電気とその成因, 大気中の電流, 雷放電, 電波による気象観測の7つがあって、これでもわかるようにいわゆる気象電気学の全般にわたって解説したものとせばよい。しかし第3, 4, 6章は直接雷のことを扱い、ほかの章でも雷に焦点を合せるように配置されていることは勿論である。

著者は2人ともこの専門で色々の業績をあげて来た人であり、現在もまた研究を続けている人だから、書かれてある内容もしっかりしている。第6章などはことに著者の得意の分野と思われるのであるが、25頁の短い頁数の中によくわかり易くこれだけの事柄を盛りこんだものと敬服させられるのである。

全体を通覧して新しい写真が沢山使われていることも気をつくことである。通俗解説書は外国の種本からの転載の写真や凸版で埋められることがよくあるのだが、この本では柿岡地磁気観測所における観測装置の新しい写真の数々などが使われているのも良心的である。

評者はしばらく前に著者等の中の1人川野君と共著で岩波全書の中に「気象電気学」を書いたが、この「かみなりの研究」はそれへの入門書と見てもよい。1年もたたない中に初歩と専門の2冊の書物を得たことを気象電気学の学問のために喜びたい。(島山久尙)